

RESAS を使った美里町・涌谷町の分析

2021年10月

遠田商工会

目 次

はじめに	1
1. 人口	2
2. 地域経済循環図	4
3. 産業構造マップ	8

■はじめに

RESAS（地域経済分析システム）は、国内の市町村単位で産業構造、人口動態、人の流れなどのデータを集約し、グラフなどで分かりやすく可視化したシステムで、経済産業省と内閣官房が無料で提供しています。

遠田商工会では、RESAS を活用し、「人口」、「地域経済循環図」、「産業構造マップ」について、美里町及び涌谷町の分析をしましたので、ご活用ください。

RESAS <https://resas.go.jp>

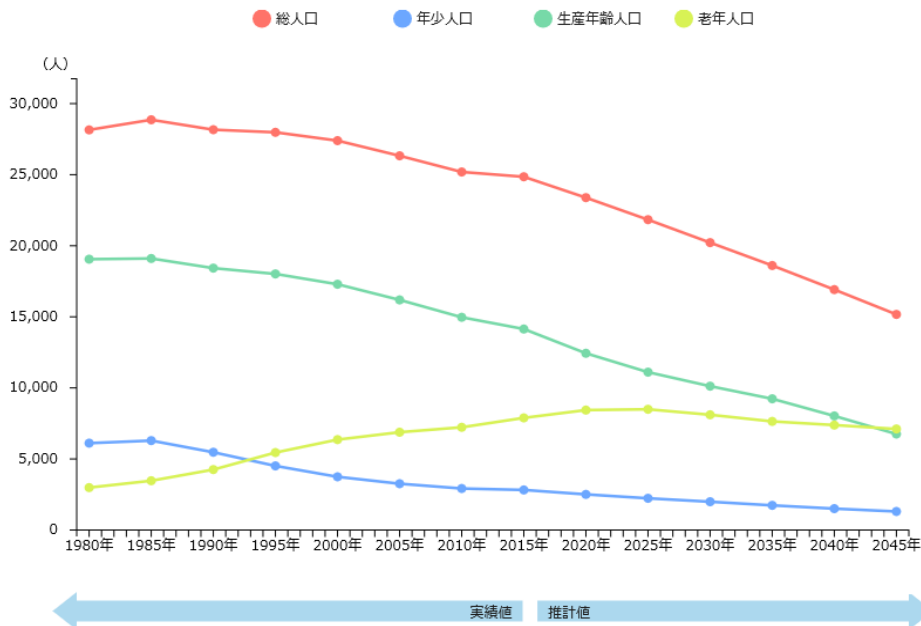
1. 人口

美里町、涌谷町においても1990年以降は、総人口、年少人口、生産年齢人口が減少傾向にあり、それと反対の老年人口が増加している。2045年には老年人口が生産年齢人口を上回ることが予測されています。

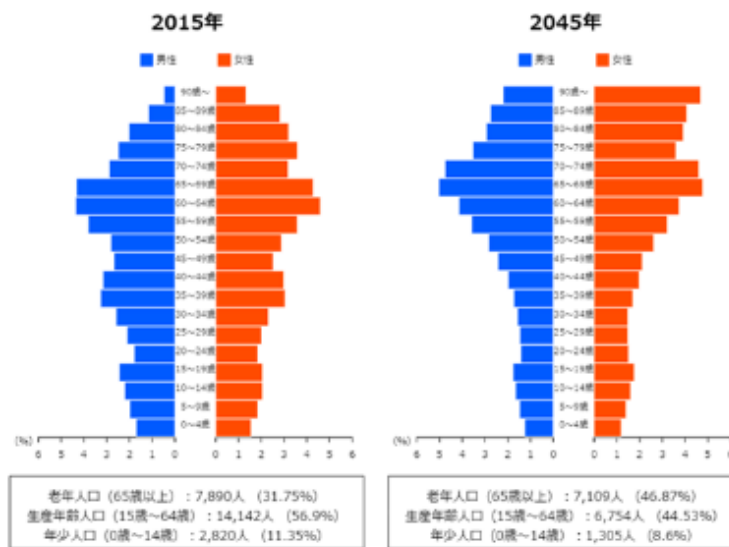
人口推移

宮城県美里町

美里町



【出典】
総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
【注記】
2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。
【その他の留意点】+

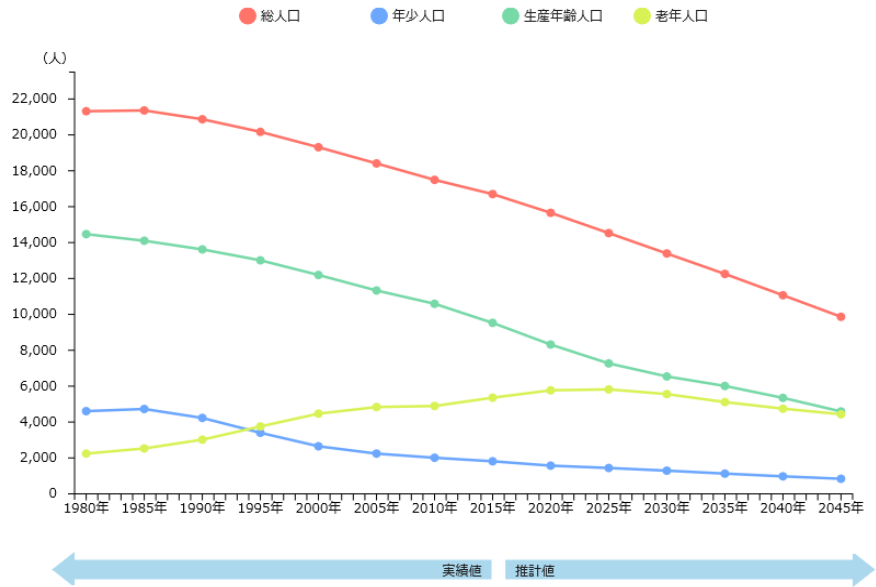


【出典】
総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
【注記】
2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。
【その他の留意点】+

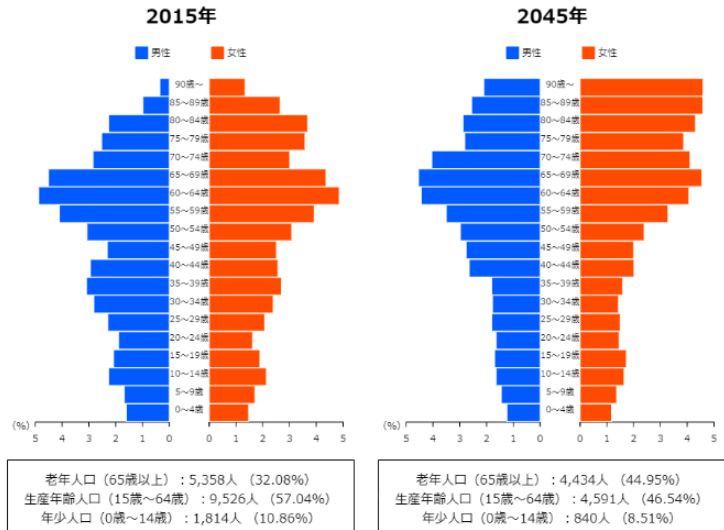
人口推移

宮城県蒲谷町

蒲谷町



【出典】
 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
 【注記】
 2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。
 【その他の留意点】+



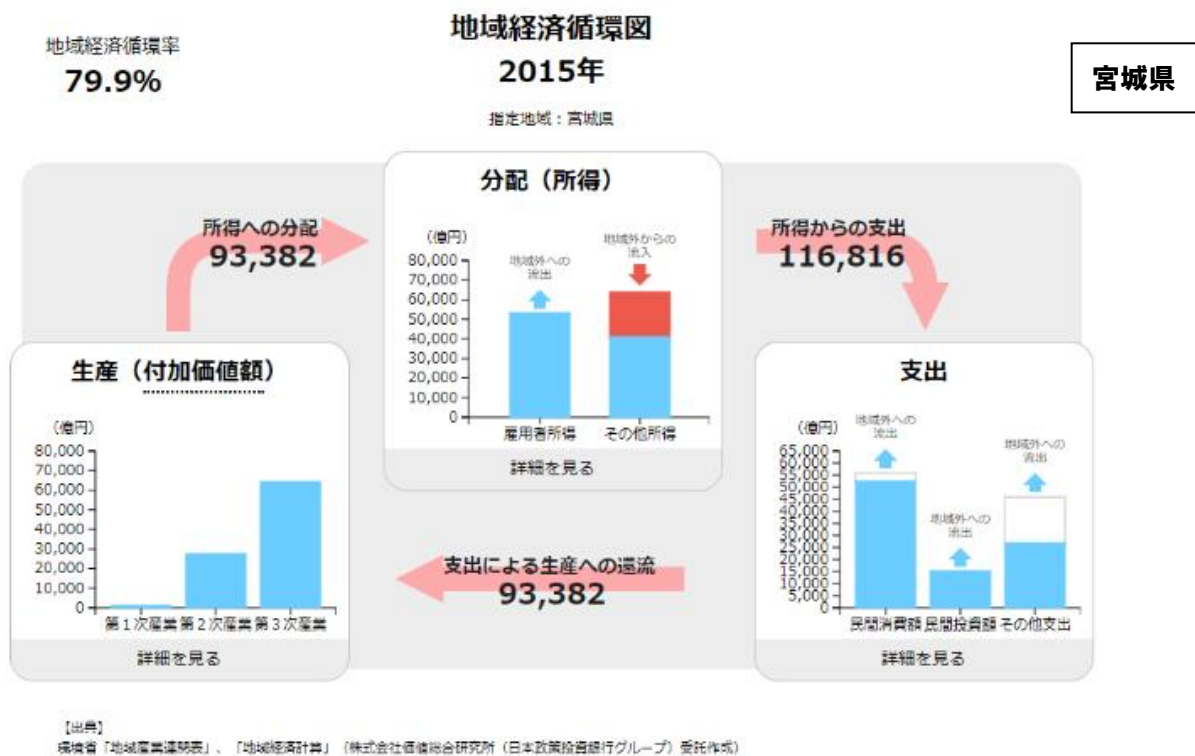
【出典】
 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
 【注記】
 2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。
 【その他の留意点】+

2. 地域経済循環図

地域内企業の経済活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や投資として支出され、再び地域内企業に還流します。

また、地域経済循環率とは、生産（付加価値額）を分配（所得）で除した値であり、地域経済の自立度を示しています。（値が低いほど他地域から流入する所得に対する依存度が高い。）

地域経済循環率は、宮城県より美里町は低く、涌谷町は高い。また、涌谷町の第2次産業の生産（付加価値額）が突出しています。

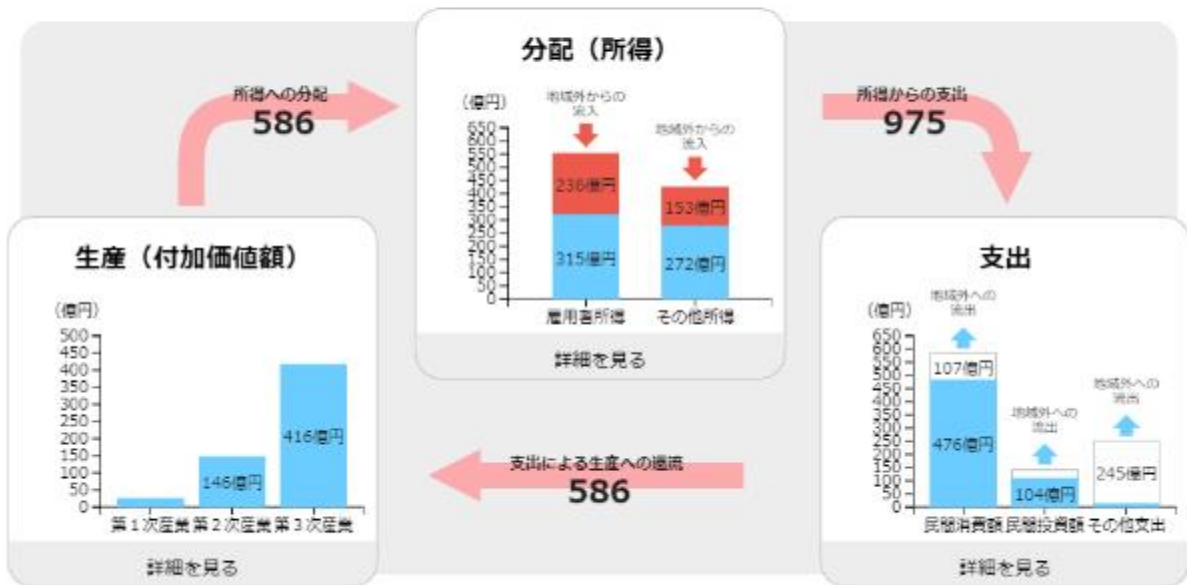


地域経済循環率
60.1%

地域経済循環図 2015年

美里町

指定地域：宮城県美里町



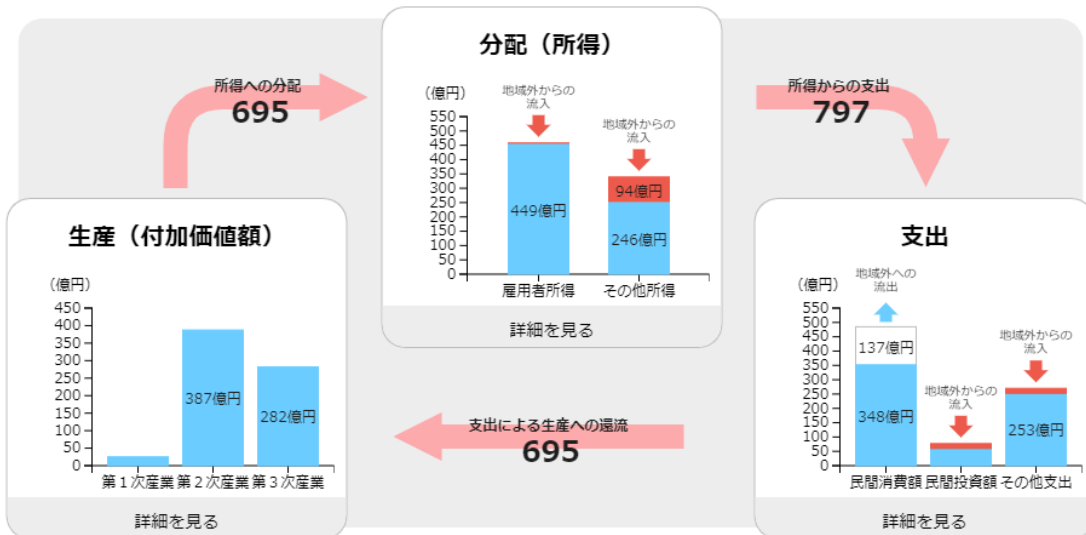
【出典】
環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）

地域経済循環率
87.1%

地域経済循環図 2015年

涌谷町

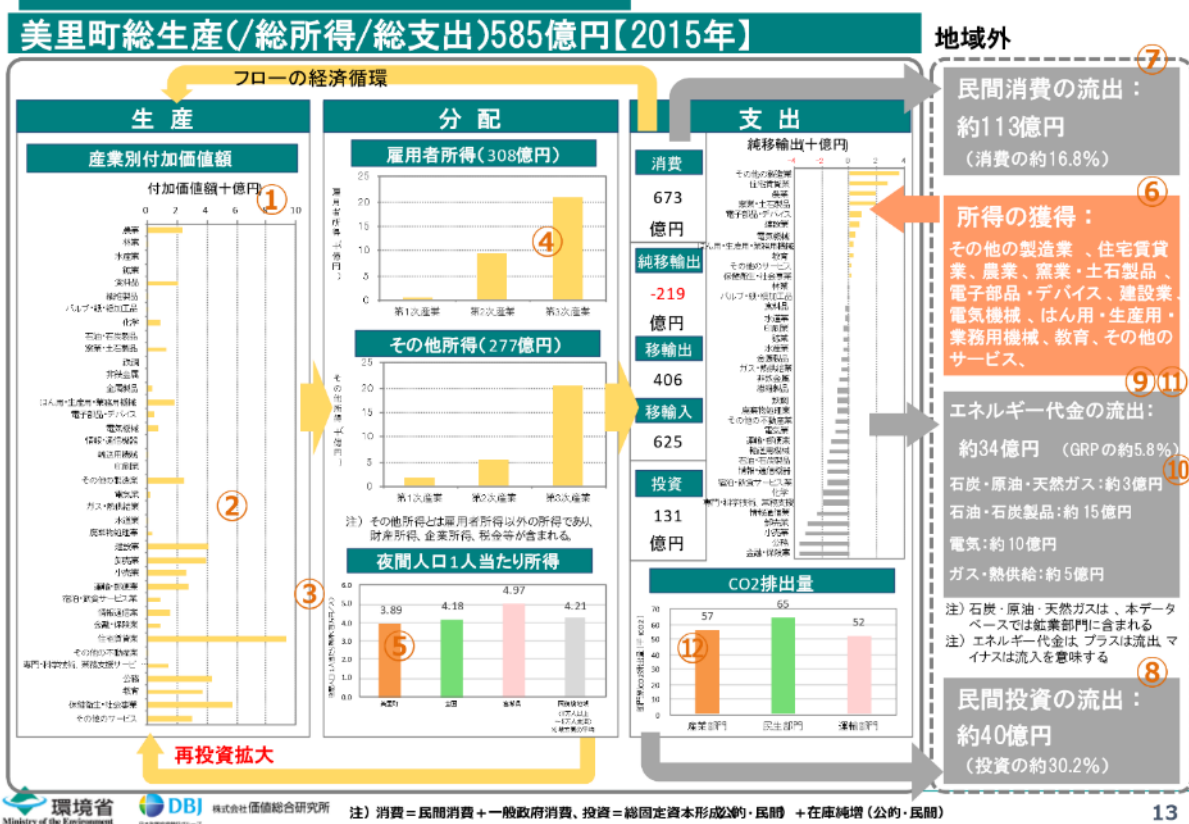
指定地域：宮城県涌谷町



【出典】
環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）

※環境省が提供している「地域経済循環分析自動作成ツール」を利用すれば、詳細な分析を行うことができます。（ <http://www.env.go.jp/policy/circulation/index.html> ）

地域の所得循環構造①

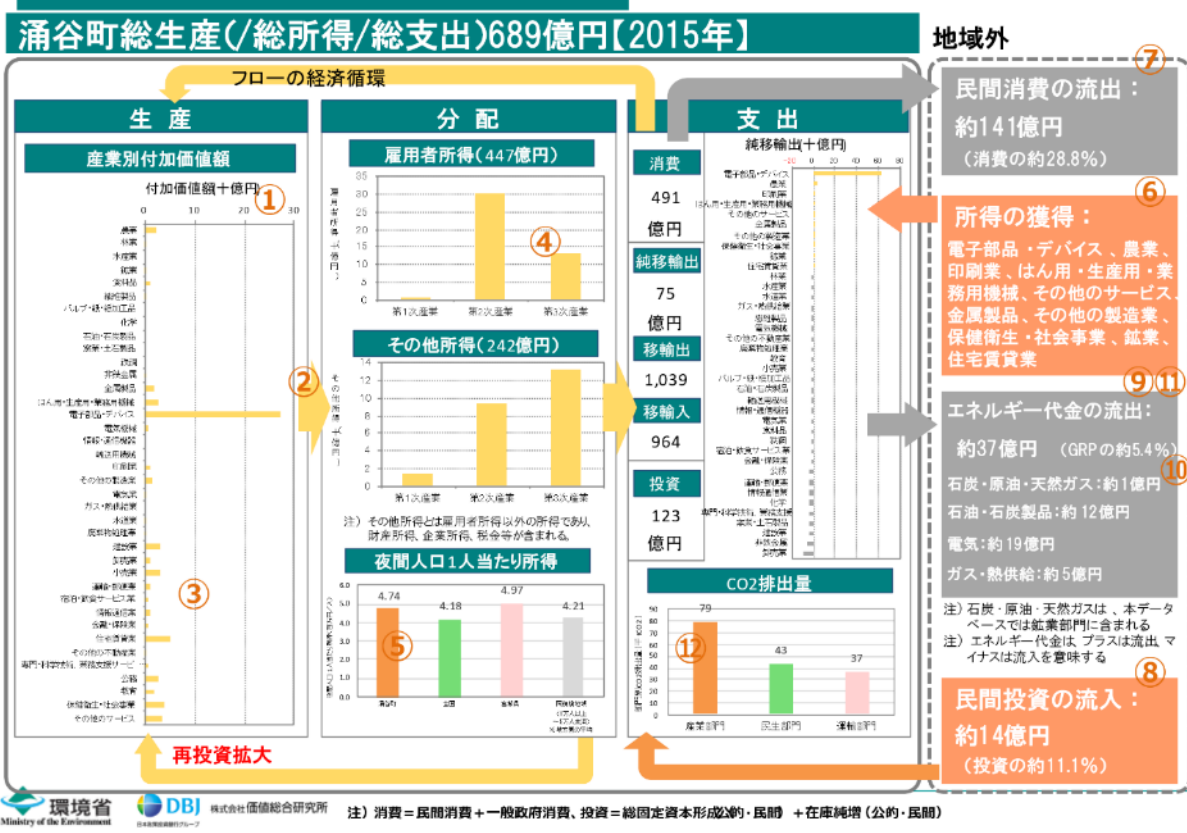


地域の所得循環構造①

	地域の特徴	分析内容
生産	<p>①美里町では、住宅賃貸業が最も付加価値を稼いでいる産業である。</p> <p>②第2次産業では、建設業が最も付加価値を稼いでおり、次いでその他の製造業、食料品が付加価値を稼いでいる産業である。</p> <p>③第3次産業では、住宅賃貸業が最も付加価値を稼いでおり、次いで保健衛生・社会事業、公務が付加価値を稼いでいる産業である。</p>	<p>■ 域内の事業所が1年間で域内でどれだけ付加価値を稼いだか</p> <p>■ 付加価値とは、売上から原材料を除いた売上総利益である</p>
分配	<p>④美里町では、第3次産業の雇用人所得への分配が最も大きい。</p> <p>⑤美里町の夜間人口1人当たりの所得は3.89百万円/人であり、全国平均と比較して低い水準である。</p>	<p>■ 生産面で稼いだ付加価値が資金・人件費として分配され、地域住民の所得(夜間人口1人当たり所得)に繋がっているか否か</p>
支出	<p>⑥美里町では、その他の製造業、住宅賃貸業、農業が域外から所得を稼いでいる。</p> <p>⑦消費が域外に流出しており、その規模は地域住民の消費額の2割程度である。</p> <p>⑧投資は域外に流出しており、その規模は地域住民・事業所の投資額の3割程度である。</p>	<p>■ 域内の産業で、域外から所得を稼いでいる産業は何か</p> <p>■ 地域内で稼いだ所得が地域内の消費や投資に回っているか否か</p>
エネルギー・CO2	<p>⑨美里町では、エネルギー代金が34億円域外に流出しており、その規模はGRPの約5.8%である。</p> <p>⑩エネルギー代金の流出では、石油・石炭製品の流出額が最も多く、次いで電気の流出額が多い。</p> <p>⑪美里町の再生可能エネルギーのポテンシャルは、地域で使用しているエネルギーの約0.13倍である。</p> <p>⑫美里町のCO2排出量は、産業、民生、運輸部門のうち民生部門が最も多く、65千tCO2である。夜間人口1人当たりのCO2排出量は6.98tCO2/人であり、全国平均と比較して低い水準である。</p>	<p>■ エネルギー代金の支払いによって、住民の所得がどれだけ域外に流出しているか</p> <p>■ 域内に再生可能エネルギーの導入ポテンシャルがどれくらい存在するか</p> <p>■ CO2がどの部門からどれだけ排出されているか</p>

注) 再生可能エネルギーのポテンシャルは環境省「再生可能エネルギー供給システム(REPOS(リーボス))」における太陽光(導入ポテンシャル)、陸上風力、洋上風力、中小水力(河川部)、地熱(蒸気フラッシュ)/基本150以上、バイナリー/基本120~450を用いている。

地域の所得循環構造①



地域の所得循環構造①

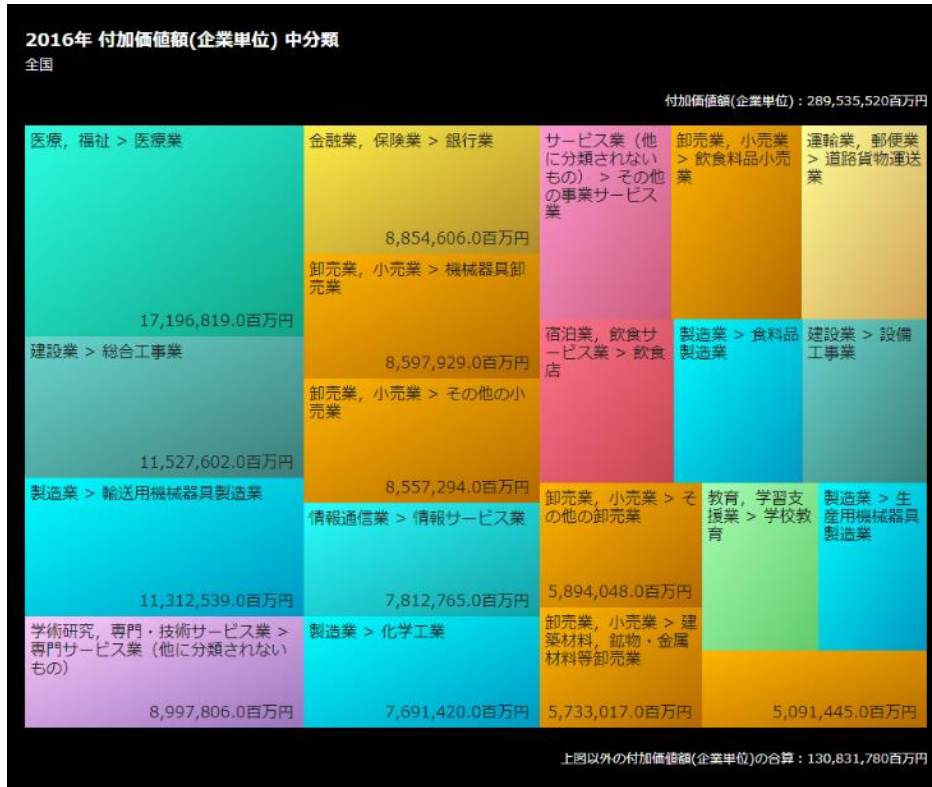
	地域の特徴	分析内容
生産	<p>① 涌谷町では、電子部品・デバイスが最も付加価値を稼いでいる産業である。</p> <p>② 第2次産業では、電子部品・デバイスが最も付加価値を稼いでおり、次いで建設業、はん用・生産用・業務用機械が付加価値を稼いでいる産業である。</p> <p>③ 第3次産業では、住宅賃貸業が最も付加価値を稼いでおり、次いで保健衛生・社会事業、その他のサービスが付加価値を稼いでいる産業である。</p>	<p>■ 域内の事業所が1年間で域内でどれだけ付加価値を稼いだか</p> <p>■ 付加価値とは、売上から原材料を除いた売上総利益である</p>
分配	<p>④ 涌谷町では、第2次産業の雇員所得への分配が最も大きい。</p> <p>⑤ 涌谷町の夜間人口1人当たりの所得は4.74百万円/人であり、全国平均と比較して高い水準である。</p>	<p>■ 生産面で稼いだ付加価値が賃金・人件費として分配され、地域住民の所得(夜間人口1人当たり所得)に繋がっているか否か</p>
支出	<p>⑥ 涌谷町では、電子部品・デバイス、農業、印刷業が域外から所得を稼いでいる</p> <p>⑦ 消費が域外に流出しており、その規模は地域住民の消費額の3割程度である。</p> <p>⑧ 投資は域内に流入しており、その規模は地域住民・事業所の投資額の1割程度である。</p>	<p>■ 域内の産業で、域外から所得を稼いでいる産業は何か</p> <p>■ 地域内で稼いだ所得が域内の消費や投資に回っているか否か</p>
エネルギー・CO2	<p>⑨ 涌谷町では、エネルギー代金が37億円域外に流出しており、その規模はGRPの約5.4%である。</p> <p>⑩ エネルギー代金の流出では、電気の流出額が最も多く、次いで石油・石炭製品の流出額が多い。</p> <p>⑪ 涌谷町の再生可能エネルギーのポテンシャルは、地域で使用しているエネルギーの約0.11倍である。</p> <p>⑫ 涌谷町のCO2排出量は、産業、民生、運輸部門のうち産業部門が最も多く、79千tCO2である。夜間人口1人当たりのCO2排出量は9.55tCO2/人であり、全国平均と比較して高い水準である。</p>	<p>■ エネルギー代金の支払いによって、住民の所得がどれだけ域外に流出しているか</p> <p>■ 域内に再生可能エネルギーの導入ポテンシャルがどれくらい存在するか</p> <p>■ CO2がどの部門からどれだけ排出されているか</p>

注) 再生可能エネルギーのポテンシャルは、環境省「再生可能エネルギー供給シミュレーション(RESOS)」における太陽光(導入ポテンシャル)、陸上風力、洋上風力、中小水力(河川部)、地熱(蒸気フラッシュ)/基本150以上、バイオ/基本120~450を用いている。

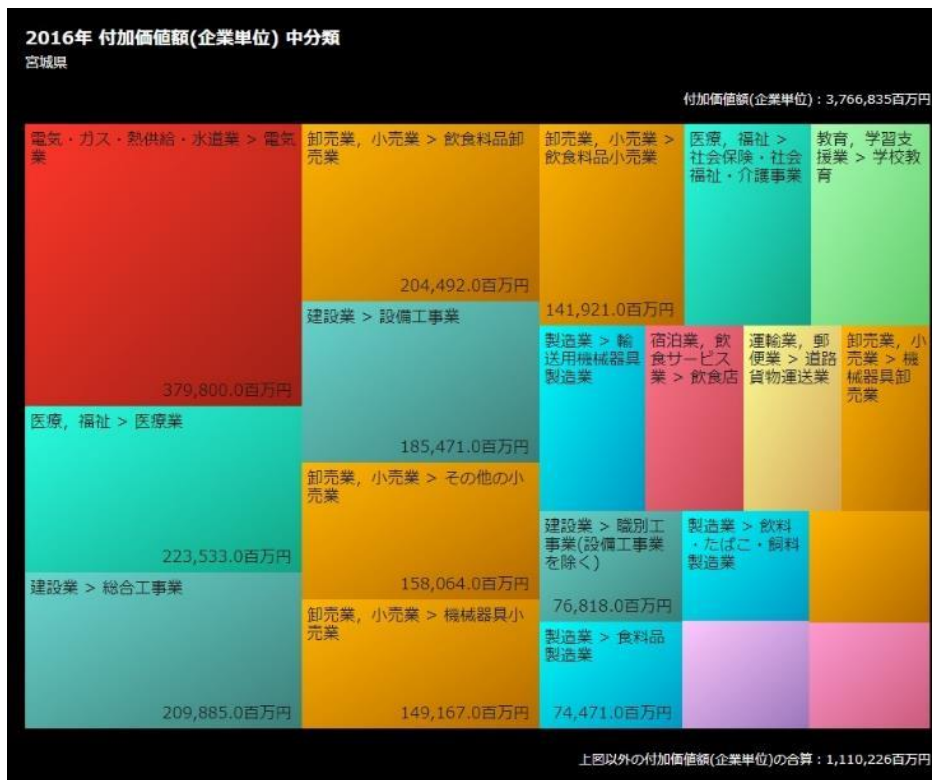
3. 産業構造マップ

自地域の付加価値額、従業者数、労働生産性の特化係数を分析することで、自地域で強みのある産業を特定できます。

付加価値額（企業単位）において、美里町では、「ゴム製品製造業」、「医療業」、「飲食料品小売業」の順で、涌谷町では、「金属製品製造業」、「総合工事業」、「医療業」の順となっています。



全国



宮城県

2016年 付加価値額(企業単位) 中分類

宮城県美里町

付加価値額(企業単位) : 23,286百万円

美里町



上図以外の付加価値額(企業単位)の合算 : 6,940百万円

2016年 付加価値額(企業単位) 中分類

宮城県涌谷町

付加価値額(企業単位) : 12,545百万円

涌谷町



上図以外の付加価値額(企業単位)の合算 : 1,686百万円